

# 第I部 成果報告 里山から見える世界

## 1. 里山ORC開設記念シンポジウム

### 里山から見える世界

#### ～里山のマクロコスモス、ミクロコスモス、中間領域～

大塚山次、石貫高典編、里山ORC山型

＜目次＞

大塚山次 全 頁 表紙～16頁

（長年探訪された里山）探訪記 巻 末 17～20頁

探訪断片 「アース・オブ・山型」 16頁～19頁

探訪断片 山型

「山型のア」より断片「山型」 16頁～19頁

断片断片

巻 末 16頁～16頁

「アース・オブ・山型」 16頁～19頁

「アース・オブ・山型」より断片「山型」 16頁～19頁

断片断片

「アース・オブ・山型」より断片「山型」 16頁～19頁

断片断片

「アース・オブ・山型」より断片「山型」 16頁～19頁

断片断片

「アース・オブ・山型」より断片「山型」 16頁～19頁

断片断片

2004年12月18日（土）13:30～17:30 頁 16頁～20頁

龍谷大学 深草学舎 21号館 6 F 604号 頁 16頁～19頁

（山型断片）「アース・オブ・山型」 16頁～19頁

今春、龍谷大学は文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業への採択を得て、里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター（略称「里山 ORC」）を開設しました。里山 ORC は、「里山学・地域共生学」を冠した日本で最初の研究機関であり、「森のある大学」としての龍谷大学が、里山的自然と里山を媒介とした地域共生の多様な可能性とを文理融合型で研究し、実践に結びつける拠点を全国に提供するものです。本シンポジウムは、この里山 ORC の開設を記念して「里山から見える世界」をテーマに開催されます。

里山は「日本人の原風景」とも言われる日本独自の自然ですが、そもそもは「人の手の入った自然」であり、「文化としての自然」という意味をもった二次的自然です。そうだとすると「原生自然」と開発され尽くした自然喪失状態との「中間領域」こそが、里山の本質なのかもしれません。この意味では、文化の異なりと共に、世界の各地に異なった里山的自然が見いだされるでしょうし、日本の各地にそれぞれ固有の里山が存在しているでしょう。また、近年のクマ出没問題においても論じられているように、人里と奥山との「境界領域」（中間領域）として里山が重要な意味をもってきました。本シンポジウムでは、マクロな視点とミクロな視点から里山的自然を見るときともに、マクロコスモス/ミクロコスモスの中間領域としての里山と人の関わりについて、ともに考えたいと思います。

里山 ORC シンポジウム企画運営責任 丸山徳次

\*\*\*\*\*

<プログラム>

13:30～13:35 司会 丸山徳次

13:35～13:40 挨拶 若原道昭（龍谷大学副学長）

13:40～13:50 「開催にあたって」 宮浦富保

第 I 部 基調講演

13:50～14:30 「森活かしの原点としての里山論」

小澤普照

14:30～14:40 休憩

第 II 部 ワークショップ

14:40～15:05 「環境利用からみる里山—ヒマラヤのフィールドより—」

土屋和三

15:05～15:20 「昆虫からみる里山生態系—「龍谷の森」で始まった生物多様性調査—」

谷垣岳人

15:20～15:35 「キノコからみる里山生態系—「角間の森」と「龍谷の森」の調査から—」

赤石大輔

15:35～16:05 「里山をめぐる共生の連携—市民・地元・行政—」

協田健一

16:05～16:20 休憩

第 III 部 全体討論

16:20～17:30

18:00～20:00 開設記念パーティー（紫英館 6 階グリル）